

芸術身体教育コース 保健体育系

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)	
小学校一種 + 中学校二種(保健体育)	または
中学校一種(保健体育) + 小学校二種	
学生が近年取得したその他の免許	
高等学校一種(保健体育)	など

生涯にわたる心身の健康を築き、明るい未来を切り拓く

人間の知的能力は知育のみで育まれるわけではなく、健康な身体と健全な思考を育む保健体育を土台に創出されます。保健体育系では、世の中を生き抜く頑健かつ柔軟な心身を標榜しつつながら、人文・自然科学と体育の融合に基づく教育体制を目指しています。そして日々健やかな暮らしを送る見識を育む学校教育の担い手を輩出すべく、スポーツに打ち込みながら、体育・スポーツ学や体育科教育学など各分野の基礎を学習する環境を揃えました。加えて保健体育系は、他教科・他の学問領域にも通ずる身体運動の諸科学について幅広い見識を研鑽できる組織でもあります。こうした教育・研究環境のもと、学生は頭と身体の双方に汗をかきながら、日々理性と野性を研ぎ究めています。



●カリキュラム・特徴ある授業や取り組み●

保健体育系では、体操、陸上、水泳、球技などの実技科目、運動学、体育心理学、運動生理学、体育社会学、衛生学などの講義科目をもとに、将来、小学校や中学・高等学校において体育及び保健体育の教育に従事する専門的な資質を備えた教員の育成を行っています。さらに保健体育科教育法や中等保健体育科教育法などといった教職科目において、保健体育科教育における教材研究、授業実践などについて研鑽を深めています。

中等保健体育科教育法Ⅱ

中等保健体育科教育法Ⅱは、主に3年次に教育実習を控えている2年生を対象に模擬授業を中心にを行っています。学生自身が教師役を経験することで、指導案の作成方法や授業中の指導方法などを身につけることを目的としています。また、生徒役を経験することで、その授業の優れた点だけでなく改善点などについてまとめ、より良い授業を作る視点も養います。



●主な授業科目

1年次	2年次	3年次	4年次
体操 陸上 水泳 武道・体づくり運動 解剖・人体生理学	運動学 衛生学 運動生理学 学校保健管理 保健体育科教育法 中等体育科教育法	ダンス 栄養学 体育原理 体育社会学 体育心理学 体育経営管理学	球技 運動学演習 運動生理学演習 体育心理学演習 卒業論文

運動生理学演習

運動生理学や神経生理学的な実験実習を教員の指導の下で一通り経験し、その後に自ら実験を企画・実施して、結果をまとめるといった体験をします。これにより、ちょっとした疑問や興味のある事を科学的に調べる方法論を学びます。実験機器を実際に扱ってデータを取得しますので、卒業研究の模擬体験ともなります。



MESSAGE

学生メッセージ

●4年生 R. I. さん (諏訪高校出身)

共に学び共に泣き、共に笑った4年間

運動が好きでその楽しさを子ども達にも伝えたいという同じ志をもった個性豊かな人たちと出会うことができます。時には辛いこと、苦しいことも皆で切磋琢磨し、乗り越え、共に成長していけるかけがえのない仲間となりました。ここで出会えた仲間との思い出は、将来の自分を笑顔にしてくれる大切な時間となるでしょう。



教員メッセージ

●加藤朋之 先生 (専門分野: スポーツ社会学)

立ち止まるな、新たな知の世界がまっている。常識は過去のもの。

保健体育には詩学があります。保健体育には哲学があります。走ること、投げること、叫ぶこと、笑うこと、人の身体は本当に不思議のかたまりです。保健体育を学ぶということは、まさにこの不思議と対峙することに他なりません。保健体育の教員になるということは、この不思議に立ち向かうことに他なりません。



研究紹介①

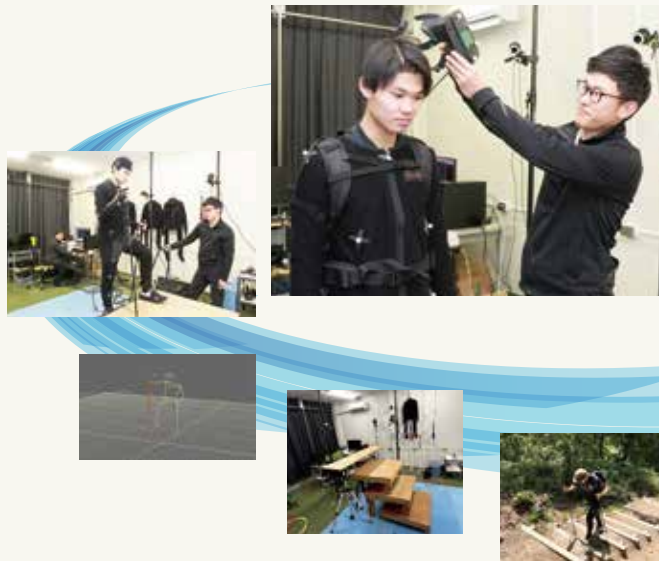
木島章文

～研究テーマ～
知覚運動制御
ならびに学習

木島 章文 Kijima Akifumi
2011年4月より教育人間科学部准教授、2016年4月より教育学部教授、主な担当科目は体育心理学と運動学。研究専門領域は知覚運動制御と学習に関するバイオメカニクスの研究。男子バレーボール部顧問。

自然環境やスポーツ環境に馴染む、頭と身体の動きを解明する

環境の変化に柔軟に応答するヒトの心身の仕組みを研究しています。山梨県には自然豊かな屋外実験の場があり、本学には高精度な動作解析器を備えた身体運動科学の研究環境があります。その中で博士学生の越水悠介君(写真: 本学教育学部保健体育科ならびに甲府南高等学校卒)は登山時の手足の協調運動を解析し、効率的な歩行メカニズムの解明に挑戦しています。具体的には、ストックの使用が心身への負担を軽減する効果を捉え、様々な年齢層が安全で快適な登山を楽しめる指導法の開発を目指しています。被験者として写っている学部生の春日虎太郎君(本学バレーボール部、岡谷工業高校卒)を始め、多くの学部生もスポーツ活動と研究の両輪でがんばっています。



研究紹介②

堀口文

～研究テーマ～
大学生の運動習慣形成
プログラムの開発

堀口 文 Horiguchi Aya
筑波大学体育専門学群を卒業し、同大学大学院人間総合科学研究科を修了。大学生の一般教養としての体育や運動習慣形成をテーマに研究に取り組んでいる。一方で、ラート競技の現役日本代表、世界チャンピオンの経歴をもつ。

楽しみながら運動を習慣化しよう!

大学生の生活習慣は他の年代と比べて著しく悪化することや、大学期に確立された身体活動パターンは長期にわたって維持されることがわかっています。健康な人生を過ごすためには、大学生のタイミングで運動習慣を身につける経験が大切です。こういった背景から、教材としてGボールやソフトギムニクなどを活用し、特に運動が苦手な学生が楽しみながら運動習慣を身につけられるプログラムの開発を目指して研究を進めています。

また、運動の「コツ」や「感覚」という、非常に抽象的な概念を言語化していくスポーツ運動学という分野で、自身のラート競技のパフォーマンスについても研究しています。例えば自分にしかできない技のコツを言語化することで、技の再現性を高め、コーチングにも役立てています。



Gボールを用いた運動プログラム



ラート競技 (Photo by Bart Treuren)

保健体育系の紹介



越水悠介 さん

大学院博士課程在学
山梨大学教育学部・甲府南高校卒

写真の新入生歓迎ハイクなど先輩や教員と交流しながら学べる機会が豊富です。また季節や自然を活かした実習など身体を動かして学ぶ環境が整っています。理論と実践の両方を深めつつ、学校教育の枠を超えて運動を通じた新たな可能性を見出すことができます。スポーツ科学や健康づくりなど、幅広い分野への視野が広がることも、保健体育系の魅力です。

松嶋健介 さん

大学院修士課程在学
山梨大学教育学部・甲府西高校卒

保健体育科は皆で身体を動かすことが多いため、教員や先輩との距離も近く、個別の相談やアドバイスを受けやすい環境が整っていることも特徴です。また、運動生理学やスポーツ心理学などの専門科目を通じて、競技力向上や健康づくりに関する科学的な知識も深めることができます。研究活動にも力を入れており、自分の興味のあるテーマを探究できるのも大きな魅力です。教員を目指す人はもちろん、運動に関する研究ができる理想的な環境がここにあります!